

# 平成30年度資金運用計画

平成30年4月

東京都水道局経理部

# 1 平成30年度の資金運用計画策定に当たっての考え方

## (1) 経済・金利動向について

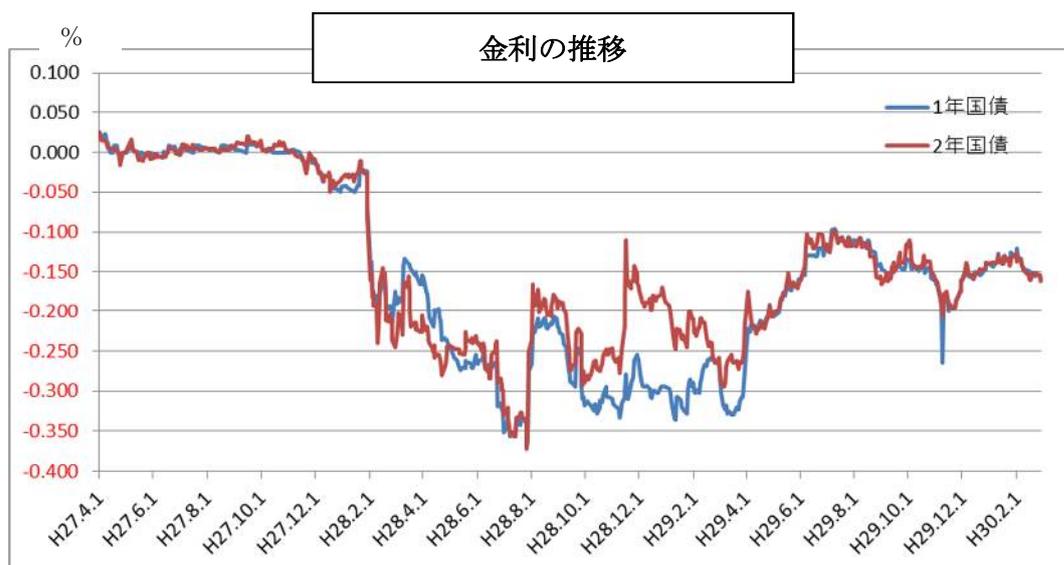
日本経済について、政府は「平成30年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度<sup>(注1)</sup>」において、平成30年度の経済見通しを「雇用・所得環境の改善が続き、経済の好循環が更に進展する中で、民需を中心とした景気回復が見込まれる。」としました。また、平成30年2月の月例経済報告<sup>(注2)</sup>においても、経済の基調判断を「景気は、緩やかに回復している」としています。なお、先行きのリスクとしては「海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある」としています。

金融情勢を見ると、日本銀行は、平成30年1月24日に公表された経済・物価情勢の展望<sup>(注3)</sup>において、「2%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を継続する」としていることから、平成30年度についても金利は低い水準で推移していくものと考えられます。

(注1) 平成29年12月29日閣議決定

(注2) 『内閣府 月例経済報告』(平成30年2月21日)

(注3) 経済・物価情勢の展望 (日本銀行、平成30年1月24日)



## (2) 計画策定に当たっての考え方

平成30年度は、日本銀行の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続などにより、金利は低い水準で推移することが想定され、資金の運用には困難な状況が続くものと考えられます。

このような環境の下、平成30年度の資金運用に当たっては、景気の動向や金融政策の先行きに特段の注意を払いつつ、「東京都水道局資金運用方針」に基づき、安全性及び流動性の確保をした上で、満期保有を前提に柔軟かつ効率的な運用を目指していきます。

## 2 資金運用計画

### 1 水道事業会計

#### (1) 資金収支見通し

平成30年度の資金収支見通しは、以下の表のとおりとなっています。

例年、水道料金収入は年間を通じて安定しておりますが、工事費用等の支出が年度後半に集中する傾向があり、企業債の発行等を行い、資金手当を行っています。

平成30年度については、水道料金収入は5億円増加しており、3,197億円となる見込みです。期末残高は、平成29年度予算の1,431億円より151億円増加して、1,582億円となる見込みです。

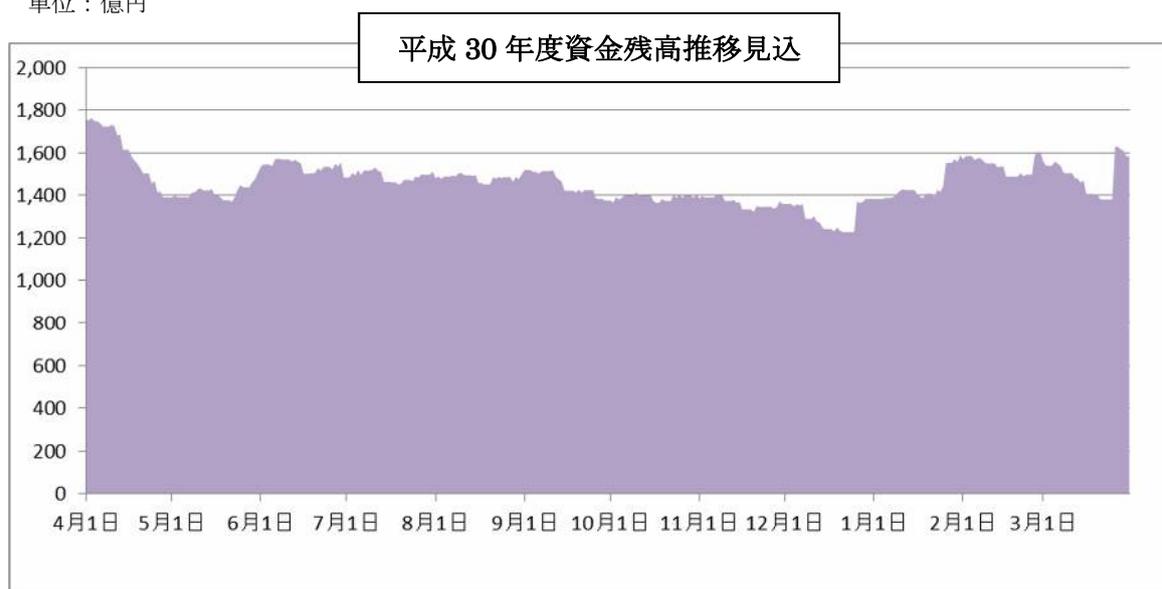
(単位 百万円)

	第1 四半期	第2 四半期	第3 四半期	第4 四半期	30年度計
収入	142,725	137,369	153,703	190,679	624,476
支出	169,481	148,286	152,905	170,812	641,484
差引	-26,756	-10,917	798	19,867	-17,008
期末資金残高	148,535	137,618	138,417	158,284	158,284
平均資金残高	151,391	147,482	135,195	149,079	145,753

(注1) 端数処理の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 運用額は四半期ごとの平均です。

単位：億円



## (2) 運用方法

水道局における資金運用は、地方公営企業法施行令により最も確実なかつ有利な方法で保管しなければならないとされており、支払に支障をきたさないよう細心の注意を払った上で、効率性についてもできる限り確保するため、「東京都水道局資金運用方針」に定める預金と債券の運用商品を選択します。

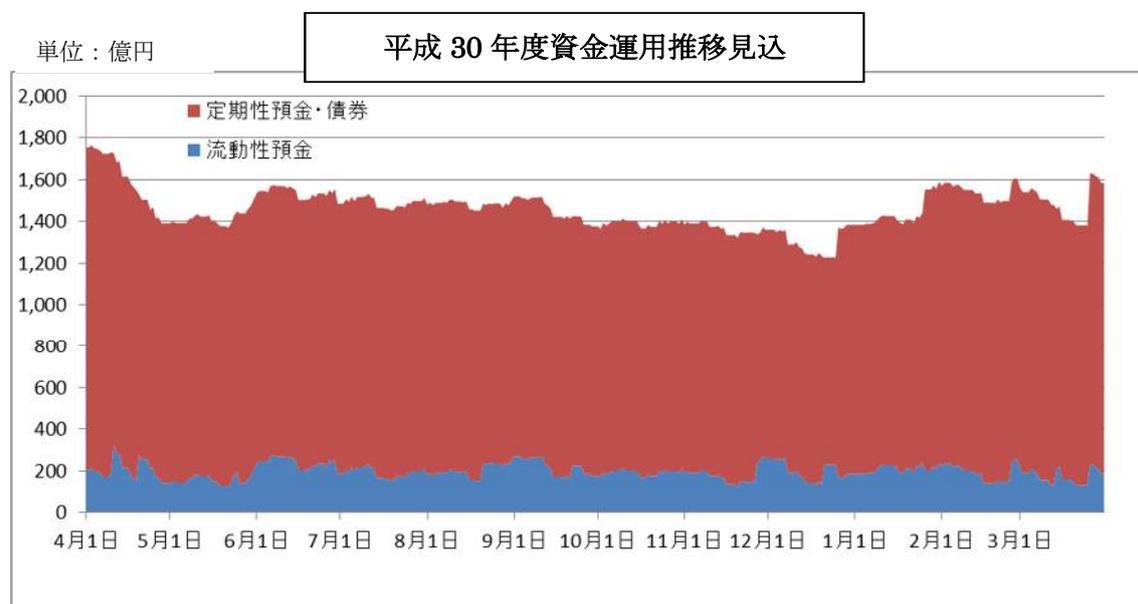
平成30年度は、日々の支払に備えるため、200億円程度を流動性預金で保管し、流動性預金を除く資金については、効率性を確保するため、次年度末までに満期を迎える、定期性預金、及び債券の金利を比較した上で運用を行います。

(単位 百万円)

		第 1 四 半 期	第 2 四 半 期	第 3 四 半 期	第 4 四 半 期	30 年 度 計
平均資金残高		151,391	147,482	135,195	149,079	145,753
運 用	流動性預金	19,907	20,308	18,890	19,024	19,534
	定期性預金 債 券	131,484	127,174	116,305	130,055	126,219

(注1) 端数処理の関係で合計が一致しない場合があります。

(注2) 運用額は四半期ごとの平均です。



## 2 工業用水道事業会計

### (1) 資金残高の見通し

工業用水道事業は、地盤沈下対策として、地下水揚水規制の代替水を供給しており、その会計は、工業用水道事業会計として表示しています。

平成30年度の平均残高の見込みは以下のとおりです。

(単位：百万円)

会計名	平均残高
工業用水道事業会計	7,961

### (2) 運用方法

工業用水道事業会計の資金は、日々の支払に備え、流動性預金を保管し、流動性預金を除く資金については、緊急の資金需要への対応を考慮し、次年度末までに満期を迎える、大口定期預金により運用を行います。

(単位：百万円)

区分	平均残高
流動性預金	877
大口定期預金	7,084